

京都大学教授に就任して

新たなる出発

入谷 寛

2003年3月修士終了 2005年博士

今年の4月に准教授から異動いたしました。これまで以上に大きな責任を負うこととなり、身の引き締まる思いです。

学部・大学院と京大に在籍し、九大で数年間助教として勤めた後、母校に8年前に戻りました。学生時代から数えると数学教室には15年もの間お世話になってきました。学生するとき、ポスドクするとき、教員するとき、その時々役割に応じて、私からみた京都大学の見え方はずいぶん変わって参りました。学生の時からは施設や建物も新しくきれいになり、風景も大きく変わりました。私がかつてそうだったように、現在の新生も心躍る日々を送っているのでしょうか。

量子コホモロジーやミラー対称性に関わる分野を研究しています。これはシンプレクティック幾何や代数幾何と関わる分野であり、また物理の弦理論とも強い結びつきがあります。私はその中でも特に量子コホモロジーの解析的な側面に興味を持っています。例えば、量子コホモロジーはある線形微分方程式系(あるいはD加群)を定め、いろいろと特別な性質を持ちます。最近の主要なテーマの一つは、そういった微分方程式の解から元の空間の(古典的な意味での)トポロジーが見えるのではないかと、といったことです。難しい分野とも見られがちですが、私自身の研究ではあまり高級な道具は使わず、どちらかというとも具体的かつ易しい素人風の手法で押し通してきました。これまでではとりあえず手を付けられるところから研究を進めてきましたが、今後はもっと高級な道具も勉強し、より難しい問題にも挑戦していきたいと思っています。

まだまだ若輩者ですが、今後とも諸先輩の皆様の教えを乞いながら、数学教室に貢献して行きたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。